

教育目標		自ら学び、未来を拓く力を育む 心豊かな生徒の育成						
重点目標		東中しぐさ(心)の確立 → 和文化和心の文化の融合						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①基礎的・基本的事項の定着 ②わからない振り返りを重視したわかりやすい授業の実施 ③家庭学習の定着	①各教科で観点別評価についての説明を行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②今日の振り返り、内容を工夫する。振り返りを実施し、授業内容をより理解させる。 ③1日2時間の家庭学習を達成させる。	①学習の成果を適切に評価されているという回答が80%以上になる。 ②生徒の「授業はわかりやすい/楽しい」という回答が85%以上になる。 ③「家庭学習のための宿題が適切に出されている」という回答が、保護者、生徒ともに80%以上になる。	A	①「学習の成果について適切に評価されている」という項目については、肯定的評価が93%で、保護者は91%であり、目標は達成できた。 ②生徒の「授業はわかりやすい/楽しい」という項目については、肯定的評価が88%で、目標は達成できた。 ③「宿題が適切に出されている」ことにより、肯定的評価は生徒が88%、保護者が72%で、生徒は目標が達成できたが、保護者は達成できていない。	①「学習の成果を適切に評価されている」という項目については、肯定的評価が93%で、保護者は91%であり、目標は達成できた。また、問題等でできていない箇所を丁寧に説明することで、生徒の理解が深まり、授業の質が向上した。また、問題等でできていない箇所を丁寧に説明することで、生徒の理解が深まり、授業の質が向上した。 ②「宿題が適切に出されている」ことにより、肯定的評価は生徒が88%、保護者が72%で、生徒は目標が達成できたが、保護者は達成できていない。	「授業中の授業の質の改善を感じることができ、結果として肯定的意見が多いので良い傾向である。分かりやすい授業および学力の向上を目指していただきたい。」 「授業参観で、楽し工夫されているところが多かった。」 「家庭学習については家庭と学校が協力して働きかける必要がある。宿題は改善案があるように個に応じた適切な内容、量等を検討いただきたい。」
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②言語活動の充実 ③デジタル化の促進	①言語活動の充実のための情報活用能力の育成 ②兵庫型システムの有効活用 ③ICT機器の効果的な活用	①各教科においてスピーチなど、生徒の発言の場を設定したり、グループワークやタブレットを活用した授業を実施する。 ②授業改善授業などの実施する。 ③タブレットや電子黒板、実物投影機等を有効的に活用する授業を実施する。	①グループワークの実施やタブレットの活用を促し、生徒の考えを引き出す工夫を努める。 ②授業改善授業を実施し、学力の定着を図る。 ③全教員が有効的にICT機器を活用し、「先生は教える方から学ぶ方になる」という回答が85%になる。	A	①「ペーパーワーク、グループワークなどを取り入れ、言語活動の充実を努めている」という回答は13ポイントも上昇した。「ICT機器、タブレットを有効活用し、「よわかる授業づくり」を実践している。」では、90%以上であるものの、前年度よりポイント下がっている。②授業改善授業を数学や英語などで実施し、生徒への支援や、質問を受け付けるなど、学力の定着に取り組んだ。③「先生は教える方から学ぶ方になる」という回答は85%以上で達成できていた。しかし、「授業内容がわかりやすい」という項目について、先生に質問しやすい割合が64%で前年度よりポイント低くなった。	③テスト前の学習会や質問をタブレットで受け付けるなど、「授業内容がわかりやすい」という項目について、先生に質問しやすい割合が85%以上になるようになっている。放課後の部活動があり、実施するための人員の確保が難しいが、人員が確保できれば、普段から質問教室や学習会を開くことを検討していきたい。	「不登校に関しては、別室の人員確保が難しい状況とは思いますが、地域の力を活用して支えていただきたい。」 「不登校支援について地域の協力が課題である。」 「別室学校により生徒の学びの場所の1つとなることを願っている。」
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①豊かな心を育てる道徳教育の充実 ②いじめアンケートの積極的な活用 ③不登校解消に向けた関係機関との連携 ④体験活動を通じた自己肯定感の向上	①担任だけでなく全教員の道徳教育の実践力向上をはかり、5の心を意識した教材を扱う場面を設定する。 ②いじめアンケートを活用し、早期発見、早期解決を図る。 ③不登校生徒を出さないための、伊丹市共通実施事項を実行する。 ④宿泊行事、トライやウィーク、校外学習等の充実を図る。	①「自己を大切にすることを教える」とも答えている生徒、保護者を80%以上にする。保護者、地域に向けて、授業公開をする。 ②重大事案につながる事案を未然に防ぐ。 ③不登校生徒数が前年比90%以下を目指す。 ④各行事を通して、生徒一人一人が役割を果たすことができる。	B	①全教員が生徒と関わりを持ち、思いやりの指導を行った。 ②いじめのアンケートを活用し、早期発見、未然防止、早期対応を行った。 ③いじめアンケートが、学校には行っていないが、生徒の不安を軽減している。地域の方協力に不足している。生徒が登校するタイミングも不規則で連携が非常に困難。 ④多くの生徒は積極的に行事に参加できたが、一部の行事が苦手な生徒への対応が今後の課題。	②次回アンケートの質問項目に再掲載して現状を知る。 ③GU週での保健委員の仕事内容に食事のメニューに関する内容を加えて、子ども達に伝わるように改善していく。	「コロナの影響が、体育の制限の影響もあり、全体的に体力不足を感じる。是非継続して取り組んでいただきたい。」
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②発達段階に応じた健全な食育の推進	①体力テストに基づいた体力向上策の実施(教科と学校行事の連携) ②ボール投げ等の能力を向上させるために、体育の授業を中心に、補強運動を継続的に取り組む。 ③給食指導における食育の推進	①体力テスト(6月実施)の結果から、全学年が全国平均を下回ったボール投げ等の能力を向上させるために、体育の授業を中心に、補強運動を継続的に取り組む。 ②授業や部活動からスポーツを「する、見る、支える」という考え方を、視点を広げる。 ③健康な食育を通して、健康管理や健全な食習慣の啓発に努める。保健委員会を中心に健康管理の啓発と食習慣の意識を高め、自己の健康管理を行う。	①再計測後のボール投げの記録が全国平均に近づく。 ②生徒がアンケートの質問項目に対して、新たな視点に気付くことができた50%以上が回答する。 ③「ほかのよを月」回答する。保健委員会を中心に、給食に関する整備やマネージャー等、食育の意識を高める。また、保健委員会と連携することで、生徒自身で健康管理意識をした行動をとれるようになる。	B	①3月の再計測の実施のため、全国平均に近いのかの確認は、このタイミングでは不明。 ②今回のアンケートの質問項目に「新たな視点に気付くことができた」という項目が出来なかった。 ③生徒、保護者アンケートより「食事や給食のときのマナーが身につくよう教えてくれている」という項目が70%前後だった。具体的などのような指導を望んでいるのかを、見極めしていく必要がある。	①「キャリアパスポートの記入はしたが、活かされなかった。」 ②SSWと密に情報の共有と連携ができた。 ③教育相談時にQUの結果を参考にできた。	「改善の余地があるので対応していただきたい。」 「キャリアパスポートは、生徒個人について理解を深めようとしても有用なものである。小学校から蓄積された貴重な資料なので、積極的に活用していただきたい。」
教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールワーカーの活用 ③教育相談の充実	①学年ごとの発達段階におけるキャリア教育の推進 ②SC、SSWとの連携強化 ③教育相談を活用した生徒間の良好な関係の構築	①キャリアパスポートを活用した進路指導を行う。 ②SC、SSWとの連携強化 ③教育相談を活用した生徒間の良好な関係の構築	①学期に1回、キャリアパスポートを活用する。 ②1回以上、会議等で密に相談を行う。 ③QUの結果を教育相談時に活用する。	C	①キャリアパスポートの記入はしたが、活かされなかった。 ②SSWと密に情報の共有と連携ができた。 ③教育相談時にQUの結果を参考にできた。	①キャリアパスポートの活用工夫の仕方全職員で共有する。 ②週1回以上、全学年で密に相談を行う。今後継続しては、教育相談に限らず、QUの結果を活用する。	「特別支援教育や合理的配慮についての研修を行う。」 「特別支援的対応や合理的配慮の校内での記録を蓄積し、学年会議や職員会議で共有し、共有する。」 ②生徒の悩みや伸びているところなど、プラスの情報は懇話時に限らず積極的に保護者に伝える。 ③支援員と教科担当、学級担任は年度毎に1回以上必ず、必要な時は直接情報交換を促す。また、各学年の担当者コーディネーターも、校内委員会の内容や支援員からの情報を学年会で伝える。	②を維持しつつ、③を改善しただけのような対応をお願いしたい。 「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている。」という項目が、昨年度より良くなってきている。さらなる進化を期待したい。
特別支援教育の推進 ①特別支援教育の充実	①校内委員会の充実 ②個別の指導計画の作成 ③特別支援教育支援員との連携	①支援を必要とする生徒に対し、情報を共有し手立てを協議する。 ②個別の指導計画の作成期日を設ける。学年トッカーで保管し閲覧できるようにする。 ③校内委員会や支援員から情報を得、それを授業に学年へ伝える。 ④支援員と担任や教科担当が直接話す機会を増やす。	①原則、毎週1回実施する。協議した内容は学年会等で必ず周知をはかる。 ②生徒アンケート「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」と及び教師アンケート「個別の指導計画に基づき、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導をしている」との回答が80%以上になる。 ③「校内委員会の内容に支援員が参加している」という回答が90%以上になる。	C	①校内委員会は原則週一度実施してきたが、協議内容の周知は不足していたところがあった。 ②生徒アンケート「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」という回答が80%以上になった。特に3年生のアンケートに上がったおき、きめ細やかな進路指導等の成果と考えられる。 ③「校内委員会の内容に基づき、コーディネーター、支援員の連携が保たれている」という回答が80%を下回り、昨年度より大幅に下がってしまい、連携の取方を考えたい必要がある。	①参加者アップのために、各教科で見に行けるように調整する。実施クラスを増やす期間を指定して見に行けるようにするなどに取り組んでいく。 ②研修内容の精選を行い、実施時期や若手教員のニーズに合わせた内容にしている。 ③小中合同研修会に関しては、新たな気づきがあったものの、時間が短いなどの課題があった。 ④1回1回の研修に関しては、行事との兼ね合いなどもあり、達成できていない。継続目標としている。	「相互に授業参観を行うなど、小中連携をさらに拡大していただきたい。」 「勤務時間短縮との兼ね合いもあり、研修時間を確保するのは容易ではないと思うが、時や変化しつつ、子供保護者も変化していくため、常に学び進化し続ける教員集団をぞめていただきたい。」	
教職員の資質向上 ①研修等の充実	①校内研修を通じた教職員の資質向上	①授業力向上をはじめとする教職員の資質向上を目指した校内研修を定期的に実施する。	①全職員が1回以上の公開授業を行う。 ②たけのこ会(若手等研修会)を定期的に実施する。 ③夏研修会等の充実を図る。 ④1回1回研修会を実施する。	B	①公開授業は2月末までに全員が終了予定である。課題は、空き時間の関係で参加者が少ないことである。 ②今年度のたけのこ会を定期的に実施でき、勤務時間内開催のため、昨年度より参加者が増えた。しかし、勤務時間内に実施するために回数は増やせなかった。 ③小中合同研修会に関しては、新たな気づきがあったものの、時間が短いなどの課題があった。 ④1回1回の研修に関しては、行事との兼ね合いなどもあり、達成できていない。継続目標としている。	①参加者アップのために、各教科で見に行けるように調整する。実施クラスを増やす期間を指定して見に行けるようにするなどに取り組んでいく。 ②研修内容の精選を行い、実施時期や若手教員のニーズに合わせた内容にしている。 ③小中合同研修会に関しては、新たな気づきがあったものの、時間が短いなどの課題があった。 ④1回1回の研修に関しては、行事との兼ね合いなどもあり、達成できていない。継続目標としている。	「相互に授業参観を行うなど、小中連携をさらに拡大していただきたい。」 「勤務時間短縮との兼ね合いもあり、研修時間を確保するのは容易ではないと思うが、時や変化しつつ、子供保護者も変化していくため、常に学び進化し続ける教員集団をぞめていただきたい。」	
教育環境の整備・充実 学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	①学校運営協議会との連携 ②東中ファミリーサポーターズ・PTAの連携強化	①拡大学校運営協議会の実施。 ②学校だより、HP、Googleクラスルーム等を活用した情報発信。 ③「サスタタ」や「図書活動」メールアドレスなどへの協力を生徒、PTA、地域に呼びかける。 ④東中地域活性化による地域連携	①拡大運営協議会を年1回以上開催する。 ②保護者アンケートで「学校は学校だよりやHP、Googleクラスルーム等で積極的に情報発信している」と回答した割合が80%以上になる。 ③ボランティアの登録呼びかけ ④保護者アンケートで「学校はサスタタや図書活動などの取組を通して地域や保護者との連携をもっと積極的な教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。	B	①拡大学校運営協議会については、12月に実施できた。 ②80%は達成していたが、昨年度よりポイントが上がった。 ③ファミリーサポーターズと連携し、登録チラシの配布を行事の際に配布したり、ポスターを掲示するなど呼びかけを行った。新入生説明会でも募集を行った。 ④アンケートの割合が90%と高い水準を維持している。	①拡大学校運営協議会の開催を職員に周知徹底を図る。 ②学校だよりを積極的に更新する。現在活発に配信されているのはスクールタタで保護者まで情報が届いていない可能性がある。 ③学校運営協議会委員の資質向上は、必須。関係法令や教育制度の理解を深め、学校と協力してより良い教育環境を構築するための学びを続ける必要がある。	「運営協議会と教職員の連携を強化できる機会をさらに設けていただきたい。」 「コミュニティ・スクールの充実を目指す上で、学校運営協議会委員の資質向上は、必須。関係法令や教育制度の理解を深め、学校と協力してより良い教育環境を構築するための学びを続ける必要がある。」	
安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②交通安全対策の推進 ③学校園施設整備・維持保全 ④学校における働き方改革の推進	①防災意識の向上 ②自転車安全教室の実施 ③毎月安全点検の実施 ④定時退勤日の完全実施	①避難訓練を通して、安全教育を行う。 ②自転車安全教室を通して、交通安全意識を高める。 ③安全点検を毎月実施する。 ④定時退勤の運動者を50%以上に引き上げる。	①年に2回避難訓練を実施する。 ②自転車安全教室を実施する。(1年生) ③安全点検を毎月実施する。 ④定時退勤の運動者を50%以上に引き上げる。	A	①訓練とわかっていながらも本番さながらの行動ができた。 ②避難経路の確認が必要である。 ③自転車の事故報告件数が減った。 ④怪我・事故なく生活できている。	①避難経路グラウンドの学年の並びを改善するべき。幅小助から3・2・1の順に、避難経路の再検討 ②人員の配置、業務改善、役割の割り振り、会議の開催日などは45分程度にする	「常に実際の災害を想定して、本番のつもりで取り組んでいただきたい。」	

学校関係者評価総括
 ・コロナ禍で感じていた学校(教職員)と保護者・地域との連携が弱くなっていた点が少しずつ改善され、全体的に上向き傾向であるが、さらに保護者・地域・小学校等を巻き込んで地域の東中学校となるよう学校運営をお願いしたい。
 ・昨年度より授業の改善が見られ、生徒も授業に集中することができた。

次年度に向けた重点的な改善点
 学校(教職員)と保護者・地域・小学校等との教職員レベルでの交流・連携を強化していただきたい。